

Apiezon M Grease

Edwards 日本、EDWARDS JAPAN LTD.

Chemwatch: 4859-09
バージョン番号: 4.1.9.10
安全データシート - JIS Z 7253 : 2019 準拠

Chemwatch 危険有害性警告コード: 1

発行日: 01/11/2019
印刷日: 15/09/2021
L.GHS.JPN.JA

セクション1 化学品及び会社情報

製品に関する情報

製品名	Apiezon M Grease
化学物質名	該当しない
同義語	データ無し
化学式	該当しない
他の製品特定手段	データ無し

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途及び使用上の制限	製造者の指示に従い使用すること。
--------------	------------------

供給者の詳細

供給者の会社名称	Edwards 日本、EDWARDS JAPAN LTD.
住所	〒276-8523 千葉県八千代市吉橋1078-1 (販売およびサービス) 276-8523 Japan
電話番号	+81 47 458 8831
FAX番号	データ無し
ホームページ	www.edwardsvacuum.com
e-メール	info@edwardsvacuum.com

緊急連絡電話番号

会社名	CHEMWATCH 緊急時対応
緊急連絡電話番号	+81 50-3204-4966
その他の緊急連絡電話番号	+81 800-080-4344

電話がつながった時のメッセージがご希望の言語でない場合は、06をダイヤルしてください

セクション2 危険有害性の要約

化学物質又は混合物の分類

分類 [1]	該当しない
--------	-------

GHSラベル要素

絵表示:	該当しない
注意喚起語	該当しない

危険有害性情報

該当しない

注意書き: 安全対策

該当しない

注意書き: 応急措置

該当しない

注意書き: 保管(貯蔵)

該当しない

注意書き: 廃棄

該当しない

ペテロラタム	委員会規則 (EU) 2018/1881 内分泌かく乱物質に関する固有の要件に記載されている
--------	--

セクション3 組成および成分情報

物質

混合物の組成については、以下のセクションを参照してください

混合物

CAS番号	%[重量]	名称	官報公示整理番号		ナノフォーム粒子特性
			化審法	安衛法	
8009-03-8.	>60	ペテロラタム [e]	-	12-261, 12-607	データ無し
凡例:		[e] 内分泌かく乱作用をもつと認められている物質			

セクション4 応急措置

必要な応急措置の説明

眼に入った場合	眼に入った場合: ▶ 直ちにきれいな流水で洗浄すること。 ▶ 洗眼は、眼球、瞼の隅々まで水がよく行き渡るように行うこと。 ▶ 速やかに医師の手当てを受けること。痛みが続いたり繰り返す場合は、医師の手当てを受けること。 ▶ 眼に損傷がある場合、コンタクトレンズの取り外しは、専門家に任せること。
皮膚に付着した場合	皮膚又は髪に付着した場合: ▶ 流水で皮膚および髪を洗浄すること。必要に応じて石鹸を使用すること。 ▶ 炎症がある場合には、医師の手当てを受けること。
吸入した場合	▶ ヒュームや燃焼生成物を吸入した場合、汚染区域から退去すること。 ▶ 患者を寝かせ、体を温めて安静を保つこと。 ▶ 義歯等の装具は気道を塞ぐおそれがあるため、可能であれば応急措置を施す前に取り外すこと。 ▶ 呼吸が停止している場合は、デマンドバルブ式人工蘇生器、バグバルブマスク、ポケットマスクなどを使用して人工呼吸を行うこと。 ▶ 必要に応じて心肺蘇生を行うこと。 ▶ 病院または医師のもとへ搬送すること。
飲み込んだ場合	▶ 飲み込んだ場合、無理に吐かせないこと。 ▶ 嘔吐した場合、気道の確保および誤嚥防止のため、患者を前傾あるいは左側臥位にし、可能であれば頭を下にした状態を保つこと。 ▶ 患者の経過観察を行うこと。 ▶ 眠気や意識不明状態などの意識低下がみられる場合、水を与えてはならない。 ▶ 口内を洗い流すために水を与え、その後患者が無理なく飲める量の液体をゆっくりと与えること。 ▶ 医師の診断を受けること。 ▶ 牛乳あるいは油を与えないこと。 ▶ アルコールを与えないこと。

医師に対する特別な注意事項

- 対症療法を行うこと。
- ▶ 長年にわたる継続的および重度の皮膚ばく露は、異型性の皮膚疾患を引き起こすことがある。この製品にばく露されることで、既に存在する皮膚病を悪化させることがある。
 - ▶ 一般的に、粘性が高く揮発性が低い物質（油類および油脂類）の場合、嘔吐を誘導する必要はない。
 - ▶ 誤って皮膚に高圧注射をした場合、切開、洗浄および／または創傷清浄の必要があるか検査すること。

注記:

一見重症に見えない怪我でも、数時間以内に広範囲の皮下組織壊死を伴う組織の腫脹、変色、激痛を引き起こすことがある。
製品が組織面に沿って身体の広範囲に移動することがある。

セクション5 火災時の措置

消火剤

- ▶ 泡沫
- ▶ 乾燥化学粉末
- ▶ BCF (規制されていない場合)
- ▶ 二酸化炭素
- ▶ 水スプレーまたは霧 - 大規模火災時のみ

特有の危険有害性

火災の際に避けるべき条件	発火する危険性があるため、硝酸塩、酸化性酸、塩素系漂白剤、プール用塩素などの酸化剤による汚染を避けること。
--------------	---

消火活動に関する情報

特有の消火方法	- 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。 - 呼吸装置および保護手袋を着用すること。 - あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。 - 水の微細噴霧を利用し、鎮火および火災現場周辺の冷却に努めること。
火災及び爆発の危険性	- 可燃性である。 - 熱または炎へのばく露による火災の危険性は低い。 - 加熱により、容器の激しい破裂を伴う膨張や分解が生じることがある。 - 燃焼時に分解し、一酸化炭素(CO)の毒性ガスを発生することがある。 燃焼生成物: 二酸化炭素(CO2) 有機物の燃焼特有の、その他の熱分解生成物 注記: 非常に高温で燃焼する。流動的な、熔融液および燃焼液体に加え濃い刺激性黒煙を生成する。 倉庫あるいは閉鎖的な保管場所では、十分な換気を行うこと。

セクション6 漏出時の措置

人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置

セクション 8 参照

環境に対する注意事項

セクション 12 参照

封じ込め及び浄化の方法及び機材

小規模漏出の場合	漏出時スリップ注意。 - 直ちに全ての漏出物を除去すること。 - 皮膚および目との接触を避けること。 - 不浸透性の手袋および安全メガネを着用すること。 - 拭い取ること／こすり取ること。
大規模漏出の場合	漏出時スリップ注意。 - 現場から人員を退かせ、風上へ移動させること。 - 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。 - 呼吸装置および保護手袋を着用すること。 - あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。

個人用保護具に関する情報については、SDSのセクション8をご参照ください。

セクション7 取扱い及び保管上の注意

安全な取扱のための予防措置

安全取扱注意事項	- 容器は、空であっても爆発性蒸気を含んでいることがある。 - 切断、開穴、研磨、溶接等の作業、またそれに類似した作業を、容器上でまたは容器の近くで行ってはならない。 - 吸入を含む、人体へのあらゆるばく露を避けること。 - ばく露の可能性がある場合は、保護衣を着用すること。 - 換気の良い場所で使用すること。 - 窪地および排水だめでの濃縮を避けること。
他の情報	- 元の容器のまま保管すること。 - 容器を完全に密封して保管すること。 - 換気の良い冷乾所に保管すること。 - 混触危険物質および食品容器から隔離して保管すること。

混触危険性を含む、安全な保管条件

適切な保管条件	- 金属缶またはドラム缶 - 製造者が推奨する容器を使用すること。 - すべての容器に明確なラベルが貼り付けられていることおよび漏れがないことを確認すること。
避けるべき保管条件	注意: 加熱した物質に水が接触すると、発泡または蒸気爆発を起こし、加熱物質の飛散により重度の熱傷を生じることがある。容器から溢れ出し、火災を引き起こすことがある。 酸化剤との反応を避けること。

セクション8 ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター

許容濃度(OEL)

成分に関する情報

出典	成分	物質名	TWA	STEL	ピーク	注記
日本産業衛生学会:許容濃度	ペテロラタム	鉱油ミスト	3 mg/m3	データ無し	データ無し	データ無し

緊急ばく露限度

成分	TEEL-1	TEEL-2	TEEL-3
ペテロラタム	140 mg/m3	1,500 mg/m3	8,900 mg/m3

成分	オリジナルIDLH	改訂IDLH
ペテロラタム	2,500 mg/m3	データ無し

物質データ

ばく露管理

適切な工学的管理方法	工学的管理(設備対策)は、危険有害性を排除するため、または作業員を危険有害性から防御するために使用される手法である。適切に設計された工学的管理(設備対策)により、通常、作業者が関与することなく、作業者を効果的に保護することができる。 工学的管理(設備対策)の基本: 工程管理 - 作業または作業工程に変更を加え危険性を低減する。 放出源の密閉および／または隔離 - 作業員を物理的危険有害性から隔離する。換気 - 効果的に作業環境の空気を入れ替える。適切に設定されている場合、換気により空気中の汚染物質を排除または希釈することができる。換気システムは、特定の工程および使用する化学物質または汚染物質に合わせて設計する必要がある。 雇用主は、作業員の過剰ばく露を避けるために複数の制御手法を用いる必要がある。
個人保護措置	   
眼/顔面の保護	▶ サイドシールド付きの保護メガネ。 ▶ ケミカルゴーグル。 ▶ コンタクトレンズの使用は、特殊な危険有害性を引き起こすことがある。ソフトコンタクトレンズは、刺激物を吸収・濃縮することがある。レンズの装用および使用制限を明記した方針文書を作業の種類または場所ごとに作成しておくこと。当該文書には、レンズによる使用化学物質群の吸収および吸着に関する評価結果、および障害例の記録等を掲載すること。医療関係者や救急隊員はレンズの取り外しについての訓練を受け、同時に適切な器具を速やかに使用できるよう準備しておくべきである。化学物質へのばく露時には、直ちに洗眼し、速やかにレンズを取り外すこと。眼の発赤または刺激の初期兆候が見られる場合には、レンズを取り外すこと。レンズの取り外しは、清潔な環境において、手をよく洗ってから行なうべきである。[CDC NIOSH Current Intelligence Bulletin 59], [AS/NZS 1336 またはその他の国家規格]
皮膚の保護	以下の手の保護具を参照してください。
手/足の保護	▶ ポリ塩化ビニル製などの化学用保護手袋を着用すること。 ▶ ゴム製などの安全靴または安全長靴を着用すること。
身体の保護	以下の他の保護具を参照してください。
他の保護	▶ 防護用密閉服(つなぎ型) ▶ 塩化ビニル製エプロン ▶ 保護クリーム ▶ 皮膚洗浄クリーム ▶ 洗眼用設備

呼吸用保護具

A-P タイプフィルタ (十分な容量を有するもの)

呼吸ゾーンでのガス／粒子の濃度が「暴露基準」(またはES)に達するか、それを上回る場合、呼吸器保護が必要となる。
必要とされる保護の度合いは面体およびフィルターの等級によって異なり、保護の種類はフィルターのタイプにより異なる。

防護係数	ハーフフェイス呼吸器	フルフェイス呼吸器	電動ファン付き呼吸器
10 x ES	A-AUS P2	-	A-PAPR-AUS P2
50 x ES	-	A-AUS P2	-
100 x ES	-	A-2 P2	A-PAPR-2 P2 ^

^ハーフフェイス

緊急事態時に現場に進入する場合、または酸素濃度や蒸気濃度が不明なエリアでは、カートリッジ式呼吸器用保護具を使用しないこと。カートリッジ式呼吸器用保護具を着用しているにも関わらず、なんらかの臭いを察知した場合は、直ちにその汚染区域から退去すること。臭いを察知した場合、その呼吸器用保護具が適切に機能していない、蒸気濃度が非常に高い、または、保護具が着用者に合っていないことが考えられる。このようにカートリッジ式呼吸器用保護具の使用には制限があるため、適切な状況においてのみ使用が認められている。

セクション9 物理的及び化学的性質

物理的および化学的性質に関する基本情報

外観	データ無し		
物理的状態	非流動性ペースト	比重 (水 = 1)	0.894
臭い	データ無し	n-オクタノール/水 分配係数	データ無し
臭気閾値	データ無し	自然発火温度 (°C)	>250
pH (製品)	該当しない	熱分解温度	データ無し
融点 / 凝固点 (°C)	40-60	粘度 (cSt)	データ無し
沸点/沸騰範囲(°C)	>450 (initial)	分子量 (g/mol)	該当しない
引火点 (°C)	>200	味	データ無し
蒸発速度	データ無し	爆発性	データ無し
引火性	該当しない	酸化作用	データ無し
爆発範囲-上限(%)	データ無し	表面張力 (dyn/cm or mN/m)	データ無し
爆発範囲-下限(%)	データ無し	揮発成分 (%vol)	データ無し
蒸気圧 (kPa)	データ無し	ガスグループ	データ無し
水溶解性	混ざらない	溶液のpH (%)	該当しない
蒸気密度 (大気 = 1)	該当しない	VOC g/L	データ無し
ナノフォーム溶解度	データ無し	ナノフォーム粒子特性	データ無し
粒子サイズ	データ無し		

セクション10 安定性及び反応性

反応性	セクション 7 参照
化学的安定性	製品は安定しており、危険な重合反応は起こらないと考えられる。
危険有害反応可能性	セクション 7 参照
避けるべき条件	セクション 7 参照
混触危険物質	セクション 7 参照
危険有害な分解生成物	セクション 5 参照

セクション11 有害性情報

毒物学的影響に関する情報

吸入した場合	高濃度の混合炭化水素を吸入すると、吐き気、嘔吐、立ちくらみを伴う昏睡を引き起こすことがある。低分子量 (C2〜C12) の混合炭化水素は、粘膜を刺激することがあり、協調運動障害、めまい感、吐き気、回転性めまい、錯乱、頭痛、食欲不振、眠気、振戦および知覚麻痺を引き起こすことがある。ばく露量が多いと、重度の中枢神経系抑制、深刻な昏睡および死を招くことがある。脳刺激および／または酸素欠乏により痙攣を起こすことがある。ばく露から数ヵ月後に、てんかん性発作および脳出血が起こるなど永久的な障害が残る場合もある。呼吸器系への影響には、浮腫や肺出血を伴う肺炎症が含まれる。分子量が軽いものは、主に腎臓障害および神経障害をもたらし、分子量が多いパラフィンやオレフィン、特に呼吸器系を刺激する。高濃度のアルケン、肺浮腫を引き起こす。パラフィン液は、知覚麻痺および神経抑制作用を発揮することがあり、衰弱、めまい、徐呼吸・浅呼吸、意識不明、痙攣および死を招くことがある。C5〜7パラフィン
--------	---

	は、多発神経障害を引き起こすこともある。芳香族炭化水素は、脂質豊富な組織(脳、脊髄、末梢神経など)に蓄積し、吐き気、衰弱、疲労、回転性めまいといった非特異的の症状を伴う機能障害をもたらすことがある。過度なばく露は、酩酊または意識不明を引き起こすことがある。石油炭化水素の多くは、心臓を刺激し、心室細動を引き起こし死を招くことがある。中枢神経系(CNS)障害の症状では、一般的な不快感、めまい、頭痛、吐き気、麻酔効果、反応時間低下および言語障害などの症状が診られることがあり、また意識不明に至ることもある。重度の中毒により呼吸障害に至り、命にかかわることがある。
飲み込んだ場合	本物質を誤って経口摂取した場合、身体に害を及ぼすことがある。商業あるいは工業環境においては、まれな侵入経路であると考えられる。
皮膚に付着した場合	反復ばく露により、通常の使用条件下でも、皮膚のひび割れ、剥離または乾燥が生じることがある。炭化水素へのばく露は、不整脈を引き起こすことがある。中度の毒性が生じると、めまい、頭痛、吐き気が生じることがある。重度の毒性が生じると、肺機能が低下し、意識喪失または死に至ることがある。炭素数C4の炭化水素は、特に神経系に有害である。石油ガス(オレフィン不純物含有)の吸入は、眠気を誘発することがある。酸素濃度減少により、呼吸不全、精神障害、協調運動障害、思考力低下、吐き気および嘔吐を伴う重度のチアノーゼおよび窒息が生じることがあり、意識喪失および死に至ることがある。開放創、擦り傷または炎症がある場合は、皮膚への接触を避けること。皮膚疾患がある場合、症状を悪化させることがある。
眼に入った場合	刺激性物質とは考えられていないが(EC指令の分類と同様)、眼に入ると流涙または結膜発赤(風焼けの症状と同様)を特徴とする一過性の不快感を引き起こすことがある。
慢性毒性	混合炭化水素に対する継続的あるいは長期ばく露により、めまい、衰弱および視覚障害を伴う知覚まひ、体重減少や脱力感、肝臓や腎臓の機能低下を引き起こすことがある。皮膚へのばく露は、皮膚の乾燥、ひび割れおよび発赤を引き起こすことがある。低分子量炭化水素に対する慢性ばく露により、肝臓や腎臓障害とともに、神経障害、抹消神経障害、骨髄機能不全、精神障害を引き起こす可能性がある。油は、皮膚に接触または吸入されることがある。長期間のばく露は、湿疹、毛包炎、顔面色素沈着、足裏イボを引き起こすことがある。全身への影響があるが、長期間のばく露は、肺の瘢痕化を増加することがある。

Apiezon M Grease	毒性	刺激性
	Dermal (None) LD50: >2000 mg/kg ^[2]	データ無し
	Oral (None) LD50: >2000 mg/kg ^[2]	
ペテロラタム	毒性	刺激性
	経口(ラット) LD50: >5000 mg/kg ^[1]	皮膚: 有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1]
	経皮(ウサギ) LD50: >2000 mg/kg ^[1]	眼: 有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1]
凡例:	1. 欧州ECHA登録物質 - 急性毒性 - から得られた値。2. *の値は製造者のSDSから得られた値。特に注記のないデータはRTECSから抽出した値。	

ペテロラタム	「炭化水素ワックス」とは、胃腸管に吸収されず、少量であれば消化されずに通過する、C20からC36までの固体パラフィン系炭化水素群のことを指す。
--------	---

急性毒性	✗	発がん性	✗
皮膚腐食性／刺激性	✗	生殖毒性	✗
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	✗	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	✗
呼吸器感作性又は皮膚感作性	✗	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	✗
生殖細胞変異原性	✗	誤えん有害性	✗

凡例: ✗ – データ利用不可または、区分に該当しない
✓ – 分類済み

内分泌かく乱特性

多くの化学物質は、内分泌系として知られる、人体のホルモンを模倣したり阻害したりすることがある。内分泌かく乱物質は、内分泌(またはホルモン)系を阻害する可能性のある化学物質である。内分泌かく乱化学物質は、体内で自然分泌されるホルモンの合成、分泌、輸送、結合、作用、または分解・排泄を阻害する。ホルモンによって制御されている体内のシステムは、内分泌かく乱化学物質によって狂わされることがある。具体的には、内分泌かく乱化学物質は、学習障害の発生、さまざまながんおよび性的発達障害などの身体形態異常に関係している可能性がある。内分泌かく乱化学物質は動物に悪影響を及ぼす。しかし、人体への潜在的な健康影響については、限定的な科学的情報しか得られていない。人類は通常、一度に複数の内分泌かく乱化学物質にばく露しており、公衆衛生への影響を評価することが困難であるためである。

セクション12 環境影響情報

生態毒性

Apiezon M Grease	エンドポイント	試験期間 (時間)	種	値	出典
------------------	---------	-----------	---	---	----

	ト				
	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し
ペテロラタム	エンドポイント	試験期間 (時間)	種	値	出典
	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し
凡例:		1. IUCLID毒性データ2. 欧州ECHA登録物質 - 生態毒性情報 - 水生毒性3. EPIWIN Suite V3.12 (QSAR) - 水生毒性データ (予測) 4. 米国環境保護庁, Ecotoxデータベース - 水生毒性データ5. ECETOC水生環境有害性評価データ6. NITE (日本) - 生物濃縮性データ7. METI (日本) - 生物濃縮性データ8. ベンダーデータ から抽出			

下水道または水路に排出しないこと。

残留性・分解性

成分	残留性: 水域/土壌	残留性: 大気
	すべての成分のデータ無し	すべての成分のデータ無し

生体蓄積性

成分	生物濃縮性
	すべての成分のデータ無し

土壌中の移動性

成分	移動性
	すべての成分のデータ無し

内分泌かく乱特性

人体よりも環境中で、有害影響と内分泌かく乱化学物質とを関連付ける、より説得力のある証拠が見られる。内分泌かく乱化学物質は、生態系の生殖生理学を大きく変化させ、最終的には個体群全体に影響を与える。一部の内分泌かく乱化学物質は、環境中での分解速度が遅い。その特性により、長期間にわたって潜在的な有害性を有する。さまざまな野生生物種における内分泌かく乱化学物質のいくつかの十分に確立した有害影響には、卵殻薄化、異性的特徴および生殖発生障害の発現などがある。示唆されているが証明されていない野生生物種における他の有害影響には、生殖異常、免疫機能障害、骨格変形などがある。

その他の有害影響

セクション13 廃棄上の注意

廃棄方法

製品／容器／包装の廃棄方法	- 製造者にリサイクルの可否を問い合わせ、可能な場合はリサイクルすること。 - 廃棄する場合は廃棄物の処理を管理している都道府県・市町村に問い合わせること。 - 残留物は、認可を受けた処分場で焼却または埋立処分すること。 - 容器は、可能であれば再生利用、もしくは認可を受けた埋立処分場に廃棄すること。
---------------	---

セクション14 輸送上の注意

要求されるラベル

海洋汚染物質	該当しない
--------	-------

陸上輸送 (UN): 危険物輸送規制対象外

航空輸送 (ICAO-IATA / DGR): 危険物輸送規制対象外

海上輸送 (IMDG-Code / GGVSee): 危険物輸送規制対象外

MARPOL 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送

該当しない

MARPOL 附属書 V 及び IMSBC コードによるばら積み輸送

製品名	グループ
ペテロラタム	データ無し

ICG コードによるばら積み輸送

製品名	輸送タイプ
ペテロラタム	データ無し

セクション15 適用法令

物質又は混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

ペテロラタム に関する適用法令			
Japan Occupational Exposure Limits - Carcinogens		日本 労働安全衛生法	
ケミカル フットプリント プロジェクト - 高懸念化学物質リスト		日本 政府によるGHS分類	
国際がん研究機関(IARC) - IARCモノグラフにより分類された化学物質		日本 許容濃度等	
国際がん研究機関(IARC) - IARCモノグラフにより分類された化学物質 - グループ 1：ヒトに対する発がん性がある		日本安衛法: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物	
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 文書の交付		
	政令名称	政令番号	
	鉱油	別表第9の168	
	名称等を表示すべき危険物及び有害物		
	政令名称	政令番号	
	鉱油	別表第9の168	
	製造の許可を受けるべき有害物		
	政令名称	政令番号	
	該当しない	該当しない	
	関連する法令・条例		
	危険物 - 酸化性の物	該当しない	
	危険物 - 引火性の物	該当しない	
有機溶剤	該当しない		
特定化学物質	該当しない		
化管法 -	分類	政令名称	政令番号
	該当しない	該当しない	該当しない
毒物及び劇物取締法			
該当しない			
化審法	優先評価化学物質	該当しない	
	第1種特定化学物質	該当しない	
	第2種特定化学物質	該当しない	
	監視化学物質	該当しない	
	一般化学物質	該当しない	

国別インベントリ状況

国別インベントリ	状況
オーストラリア - AIIC /オーストラリア非工業用	Yes
カナダ - DSL	Yes
カナダ - NDSL	No (ペテロラタム)
中国 - IECSC	Yes
欧州 - EINEC / ELINCS / NLP	Yes
日本 - ENCS	No (ペテロラタム)

国別インベントリ	状況
韓国 - KECI	Yes
ニュージーランド - NZIoC	Yes
フィリピン - PICCS	Yes
米国 - TSCA	Yes
台湾 - TCSI	Yes
メキシコ - INSQ	Yes
ベトナム - NCI	Yes
ロシア - FBEPH	Yes
凡例:	Yes = 全ての成分がインベントリに収載されている いいえ= 1つ以上のCASに記載されている成分が在庫にありません。これらの成分は免除されるか、登録が必要になります。

セクション16 その他の情報

改訂日	01/11/2019
最初の発行日	31/03/2014

SDSバージョンの概要

バージョン	改訂日	更新されたセクション
3.1.1.1	13/03/2019	期限切れ。レビューと更新
4.1.1.1	01/11/2019	単発のシステムアップデート。注:GHS分類の変更を伴う場合と伴わない場合があります。
4.1.2.1	26/04/2021	規制の変更
4.1.3.1	13/05/2021	規制の変更
4.1.4.1	27/05/2021	規制の変更
4.1.4.2	30/05/2021	テンプレートの変更
4.1.4.3	04/06/2021	テンプレートの変更
4.1.4.4	05/06/2021	テンプレートの変更
4.1.4.5	09/06/2021	テンプレートの変更
4.1.4.6	11/06/2021	テンプレートの変更
4.1.4.7	15/06/2021	テンプレートの変更
4.1.4.8	05/07/2021	テンプレートの変更
4.1.5.8	22/07/2021	規制の変更
4.1.5.9	01/08/2021	テンプレートの変更
4.1.6.9	02/08/2021	規制の変更
4.1.7.9	05/08/2021	規制の変更
4.1.8.9	09/08/2021	規制の変更
4.1.8.10	29/08/2021	テンプレートの変更
4.1.9.10	13/09/2021	規制の変更

他の情報

製品および各成分の分類は、公式かつ信頼性の高い情報源や、参考文献を使用したChemwatch分類委員会独自の評価によるものです。

SDSはハザードコミュニケーションのツールであり、リスクアセスメントの一助として使用されるべきである。掲載されているハザードが、作業場やその他の環境においてリスクをもたらすか否かは、様々な要素により決定される。暴露シナリオを参照することにより、リスクが特定されることもある。使用規模、使用頻度および現行の設備管理も考慮しなければならない。

定義および略語

- ▶ PC-TWA: 時間加重平均許容濃度
- ▶ PC-STEL: 短時間ばく露限界許容濃度
- ▶ IARC: 国際がん研究機関
- ▶ ACGIH: 米国産業衛生専門家会議
- ▶ STEL: 短時間ばく露限界値
- ▶ TEEL: 一時的緊急ばく露限度
- ▶ IDLH: 脱出限界濃度
- ▶ ES: ばく露基準

- ▶ OSF: 臭気安全係数
- ▶ NOAEL :無毒性量
- ▶ LOAEL: 最小毒性量
- ▶ TLV: 許容濃度
- ▶ LOD: 検出限界値
- ▶ OTV: 臭気検知閾値
- ▶ BCF: 生物濃縮係数
- ▶ BEI: 生物学的ばく露指標
- ▶ AIIC: オーストラリア工業化学品インベントリ
- ▶ DSL: 国内物質リスト
- ▶ NDSL: 非国内物質リスト
- ▶ IECSC: 中国現有化学物質名録
- ▶ EINECS: 欧州既存商業化学物質インベントリ
- ▶ ELINCS: 欧州届出化学物質リスト
- ▶ NLP: もはやポリマーとみなされない物質のリスト
- ▶ ENCS: E既存化学物質 / 新規公示化学物質
- ▶ KECI: 韓国既存化学物質目録
- ▶ NZIoC: ニュージーランド化学物質インベントリ
- ▶ PICCS: フィリピン化学品および化学物質インベントリ
- ▶ TSCA: 有害物質規制法
- ▶ TCSI: 台湾既存化学物質インベントリ
- ▶ INSQ: 国家化学物質インベントリー
- ▶ NCI: 国家化学品インベントリ
- ▶ FBEPH: ロシア 潜在的に有害性のある化学物質及び生物学的物質リスト

当データシートは著作権により保護されており、著作権法により許可される個人的な研究、リサーチ、批評もしくは論評等公正な目的に使用する以外には、ケムウォッチ (TEL: +61 3 9572 4700)からの書面による許可が無い限り、いかなる部分の複製も方法を問わず禁じられています。